

学 園 だ よ り

太 白 山

(令和2年12月発行)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立2丁目4-1

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<http://www.pref.miyagi.jp/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

令和二年度さわらび学園祭

実行委員長 木村友香理

今年度の学園祭は、新型コロナウイルス感染症対策として、縮小開催となりました。例年よりも、保護者や関係機関の方々の来場を制限し、検温や消毒等の感染対策をさせていただきました。皆様のご協力のお陰で、無事に開催できたことを感謝致します。

夏休み中の招待状作成から始まり、意見発表の作文書き、和太鼓の練習等、子どもたちは長い時間をかけて学園祭の準備を行ってきました。

練習期間の中では、焦りや不安から気持ちが落ち着かなくなったり、怪我のアクシデントもありました。それでも、職員からの助言や子ども同士の励ましにより、少しずつ自信を付けていくことができました。

本番では、来場いただいた皆様に見守られ、子どもたちそれぞれが、自分ができる最大限の成果を発揮できたように思います。

お忙しい中、ご来場いただきました、保護者・関係者の皆様に改めて感謝すると共に、来年度は、地域の皆様や多くの関係機関の皆様にも子どもたちの活躍をご覧いただけるようになることを切に願います。

「学園祭を振り返って」

中学2年 R

今日は学園祭がありました。大きなプログラムは二つで、意見発表と和太鼓演奏です。

意見発表は一番最後に読んだので若干緊張しました。でも、意外とスラスラと読めたので良かったです。和太鼓演奏は声も出せていたし、何より全員でしっかりと動きを大きくしていたので、練習よりも良い動きで出来たと思います。ですが、動かなくてもいいところで動いてしまったり、転びそうになったりとミスもしました。そして、何回も連続でまわる場面では膝が痛かったです。このように小さなことがあったのですが、声、スピード、動き等全体的にまとまっていて良かったです。今まで、何回も練習してトラブルもあったけど、皆で努力した結果が実った発表だと思いました。

でも、実は難しかったことは他にもあります。それは来賓の先生の話や校長先生、講評の時の起立や着席等のタイミングです。着席の時のサインを見忘れると「タイミングがおかしい人がある」と思われるので、遅れる訳にはいきません。このように色々な努力をしたので成功して良かったです。

最後まで、見守ってくださいありがとうございました。

ご来場ありがとうございました。

修学旅行（中学部）

三学年担任 佐々木信太郎教諭

新型コロナウイルス感染症を考慮して、校長や学園とも調整を重ねた結果、今年度は、大幅に内容を変更して実施することになりました。まず、実施時期を九月から十一月に変更し、また、感染状況等を総合的に考えて、行き先を東京方面から栃木日光方面に変更しました。さらに、旅行期間を二日間に短縮することで、日程や活動にメリハリを付けることにしました。

今回、大幅な変更をしても生徒たちの「行きたい」気持ちは、とても強く私に伝わってきました。そして、これまで以上の修学旅行にしなければならぬと、気持ちを引き締めて、計画を練ることにしました。その後、なんとか下見を終えたことで、現地の様子や訪問先とのコロナ対策の検討を重ねることができ、事前学習に役立てることができました。生徒に、写真や資料を提示しながら日程を説明すると、楽しそうに担任を質問攻めにしました。そんな中みんなが決めたスローガンは『明日、楽しそう』です。これは、クラス全員と引率職員の名前の一文

字をとって、「あいいうえお作文」にしたものです。

修学旅行スローガン 『明日楽しそう』

あ い さ つ
し ら べ よ う
た の し も う
た べ よ う 残 さ ず
の り の り で
し ん 型 コ ロ ナ
そ ー シ ョ ン デ ィ ス タ ン ス で
う つ く し い 日 光

修学旅行の行程等を紹介します。

●十一月二十六日（木）

○バスで移動

・貸切バスは、二人分の座席を一人で使い、かなりゆったりして密を避けることができました。車内のレクリエーションが、かなり盛り上がりました。

○日光江戸村

・すぐに忍者屋敷・迷路で体を動かし、事前に選んだ弁当を食べてから、2つの班に分かれて、アトラクションを楽しみました。

○日光東照宮

・宝物館で、徳川家康の甲冑や刀剣な

どを、鑑賞した後、改修工事が終わった陽明門を背景に集合写真を撮りました。また、新厩舎（三猿）の前では、三猿のまねをしてユニークな写真も撮れました。それぞれ、お土産やスイーツを楽しむこともできました。

●十一月二十七日（金）

○りんどう湖ファミリー牧場

・りんどう湖は、耐震工事のために湖水がほとんど無い状態で驚きましたが、他校生や一般の入場者が少なく、気兼ねなくアトラクションを楽しむことができました。特に、皆で湖面を滑空するジップラインに乗ることをクラスで決めていたので、真っ先に乗れたのが良かったです。

「修学旅行を振り返って」

（生徒作文より）

私たちは、二日間、栃木県に行きました。その中で、世界遺産や減多に体験することができないこともあり、とても良い時間を過ごすことができました。

今回は、新型コロナウイルス感染症で修学旅行に行けるかどうか分からない中、分教室の先生達が修学旅行に行けるように準備してくれたことに

感謝したいです。ありがとうございます。当日の写真



「師走」思ふこと」

すみれ寮長 今野直子

令和二年度すみれ寮は、入所期間がまだ短い児童二名という少し寂しい人数で始まりました。職員は、前年度から継続の二名と人事異動等で入れ替わった四名の計六名体制です。当然のことながら四〜五月は、児童、職員ともに「新しい仲間、新しい環境に早く慣れよう」を目標に掲げました。今振り返ってみると、それぞれが自分のことで精一杯の二か月だったように思います。コロナ禍の状況も重なりどころかという職員の方が、日々バタバタと落ち着きのない動きになっていたのでないかと反省しています。六月からは、通常の分教室登校が再開し、特に平日の朝の動きを再確認して、気持ちも動きも仕切り直しとなりました。少し進んではまたスタートに戻った感じがしましたが、運動好きで負けず嫌いの児童が園内バドミントン大会で見た最後まで諦めずに頑張る姿や、ダブルスのチームとして声を掛け合い協力し合う姿に、うれしい成長が感じられました。また、八月には、児童、職員全員で社会見学へ出かけ、食

べて遊んで、少しだけ揉めて、大いに笑って一日を過ごすことができ、いい思い出になりました。夏休みが終わる頃、ようやく四〜五月に掲げた目標に近づいたのではないかと思えました。九月上旬からは児童一名となり、男子寮と比べれば益々少人数集団なのですが、人間関係のバランスのようなものなのか、それぞれの果たす役割が少し変わったようにも思え、全く違った環境で育った児童と、全く違った経歴を持つ大人が同じ生活環境でコミュニケーションを取ることは、かなりの努力や工夫が必要ということを変更して痛感する日々となりました。十二月は、概ね予想どおり児童一名から二名になるでしょう。児童も職員もまた仕切り直します。ゆっくり少しずつ成長してきたすみれ寮だったように思います。そろそろ、各自の良い持ち味を發揮し、人間関係のバランス微調整を図りながら、その先の成長を期待したいと思えます。



家族支援担当から

家族支援担当 野村美江

今年度より、さわらび学園家族支援担当に配属されました。初めての職場と新しい業務で、上半期は慣れるのに一杯でした。最近はずいぶん業務にも慣れ、全体を見る余裕もできてきたかな？と感じます。

家族支援というポジションに、本来求められているものがまだよく掴めてはいませんが、寮の先生方の業務を支える裏方として、細かい事務作業の一端を担う役割があること、また児童相談所や学校など、子ども達を支援してくださる関係機関の方との調整は、大事な役割であることを実感しました。「家族支援」という名称が表す通り、在園中の子ども達を含めたそれぞれのご家族全体を支援する役割は、寮の先生方が主体となって活動している現状ですが、関係機関との調整役と

して、よりいつそう関わられるよう努めているところです。

そのような中でも、退所後のアフターケアは家族支援担当が担う部分が大きく、在園中よりもご家族との関わりが深まるように感じます。

子ども達は学園で生活する間に、周囲の支援者と二人三脚で自分自身の課題と向き合って、苦しみながらも大きく成長していきます。毎回退園式での立派な姿を見るたびに、胸が熱くなる思いです。ご家族の皆様にも、子ども達の努力を前向きに受け止めて頂くとともに、苦しい時でも、ご家族として共に寄り添って歩んで頂きますよう、ご協力よろしくお願ひ致します。私達も微力ながら、精一杯尽力していきたいと思えます。

作業係から

担当 佐藤光平

さわらび学園の作業内容は、主に①畑・花壇整備、②環境整備、③寮内外の掃除、の三つです。寮毎に畑や花壇の大きさや寮周辺の敷地面積は違いますが、全児童・職員が一体となって取り組む姿は素晴らしい物です。

今年度の作業目標は、『生活の場』である学園の環境整備、農作業等一生懸命に行うことで、一体感・達成感・忍耐力の向上を目指す。』です。新型コロナウイルスの影響で分教室が休校になり、作業時間が多くなりましたが、児童達は一生懸命職員の指示を聞いて取り組んでいました。

作業となると、畑や花壇整備・園内の環境整備等、力を要する内容が多く、児童達も決して楽ではありません。しかし真夏の炎天下でも、極寒の中でも児童達は職員から指示された内容を黙々と、時には楽しそうに取り組んでおり、職員達は日々感銘を受けています。

また、児童・職員で作り上げた作物や花々が成長していく喜びを共に感じることで、これまでの苦勞が労われます。今年度は晴天にも恵まれ、作物や花々の発育状況も良好でした。各寮

で採れた作物は、厨房に提供して調理していただき、献立に組み込まれたり、寮内での夜食作りや寮炊等で使用しました。自分たちで手間暇をかけて作り上げた作物を食べることで、よりおいしさを感じ、次回の畑作業も頑張ろうと意識を持つことが出来ます。

私自身作業係を担当することは初めてであり、右も左も分からないまま新年度を迎えましたが、多くの発見もありました。作物や花々を育てる難しさを感じると共に、収穫したときや大きな花が咲いたときの喜びはこれ以上ないものです。

これからの季節は降雪により、雪かきの頻度が多くなります。体力を消費する作業となりますが、今後も児童・職員が一体となり、『withの精神』で極寒の冬を乗り越えていき、心身共に一回りも二回りも成長し次年度に備えていきます。

学習係から

担当 都澤智洋

さわらび学園では、毎日寮内で約一時間、自習の日課があります。人來田小中学校分教室から課題が出ている場合には、その課題に取り組み児童が多いです。が、自分の興味のある内容を選択して学習する児童もいます。また、学園心理士の協力をいただき、集中力や注意力を高める「ユグトレ」に挑戦している児童もいます。

学習係としては、毎日の取組みの足跡を残し、少しでも自信につながられるように、月ごとに自習時間進捗確認表を作成しています。児童は何を学習したか、毎日振り返り、記録しています。

月末に、自習時間進捗確認表を記入し終わったら、学園の職員全員で、それを確認しています。児童の頑張りを学園全体で理解するためです。また、分教室の先生方にも見ていただいています。たくさん大人の目で児童の成長を見守っています。確認だけでなく、児童を励ます一つの材料になれば、と思っています。

それから児童たちは七月、十一月、二月に漢字検定試験にチャレンジし

ています。さわらび学園では、毎週末の午前中に、漢字テストに取り組み時間がありますが、その取組みが結果として形に表れる、よい機会となっています。

学ぶ姿勢は、大人になってからも、探究心や創意工夫する力となって身を助けてくれるものです。日々の学びが、児童たちの豊かな人生を送れる力と自信につながれば、と考えています。

今後の予定

- ・ 十二月十七日 クリスマス会
 - ・ 十二月二十四日 休業前集会(分)
 - ・ 十二月二十八日 餅つき子ども会
 - ・ 一月六日 休業明け集会(分)
 - ・ 一月十四日 新春の抱負発表会(分)
 - ・ 一月十五日 新春スポーツ大会
- ※分・分教室行事

☆編集後記☆

さわらび学園にも雪が降りました。これから宮城県も寒い冬に突入です。今年もさわらび学園の児童、職員への応援、支援等ありがとうございます。来年もよろしくお願いたします。来年も学園の様子を少しでもお伝えできるよう頑張っていきたいと思っています。